

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200628		
法人名	株式会社 清華の森		
事業所名	グループホーム みどりの森		
所在地	佐賀県唐津市見借4749番地1		
自己評価作成日	令和3年12月31日	評価結果市町村受理日	令和4年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みどりの森の理念に沿い、家庭的な雰囲気을大切にして安全で楽しく生活できる様に優しさや笑顔のある生活が提供できる環境作りをこころがけています
現在はコロナ禍の為制限をした生活になっています

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和4年2月18日

四季折々の山里にあるホームには、展望台があり唐津湾を一望できる。また、湧き水もあり近隣住民とのふれあいの場となっている。木をふんだんに使用した温もりのあるホームには、桜の木が幾本も植えられ、入居者の散歩の楽しみとなっている。ホームは家庭的な雰囲気を大切にし、コロナ禍で外出が制限される中でも行事や催しを充実させている。また、職員も日々感染症対策を行いながら、入居者の思いや笑顔を大切にしている。幅広い年齢層の職員が入居者の目線で対応することで、入居者の安心や安全、尊厳に繋がっている。それはホームの財産でもあり、家族にも感謝されている。職員の日々の入居者への思いの積み重ねが、ホームの理念に昇華されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で、社長と職員と一緒に調和して目標達成を心がけている	毎朝の朝礼で理念を唱和し、定期的な勉強会では、理念に基づいたケアの振り返りを行っている。また、日々の業務の中で問題があった時には理念に立ち返り、尊厳あるケアと家庭的な雰囲気大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催事がある時は出来るだけ参加していたが現在はコロナ禍の中で参加は出来ない	コロナ禍前は、子供浮立や唐津くんちの見学や、近所のお店に買い物に行っていた。現在は、正月にホームの前で地域の方に獅子舞を踊ってもらったり、敷地内の湧き水をもらいに来る人と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議をなどで、地域の方に認知症について話をして理解を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催予定ではあるがコロナ禍の中で開催できない時がある。その時は状況報告を郵送して意見頂いている	コロナ禍により、対面での開催は1回のみで書面での開催を行っている。家族や民生委員、関係職種に、写真付きの充実した分かりやすい内容の書面を郵送している。しかし、会議メンバーから意見をもらう仕組みが不十分である。	会議メンバーから意見をもらえるような仕組み作りに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市の職員の方に出席して頂き、必要な意・アドバイスを頂いている。必要時には電話や訪問で相談している	市の職員とは、日頃から適宜情報交換を行っている。市からの問い合わせに対応したり、意見やアドバイスをもらったりと、良好なコミュニケーションと協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月に1回開催して身体・言葉の拘束をしない方針で話し合いケアの確認をして取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束適正化検討委員会を開催し、玄関施錠もされていない。また、毎月の勉強会でも、声掛けや接遇、言葉による行動抑制等、ケアの振り返りを行っている。また、外部研修で学んだ事を勉強会でも行い、活発な意見交換や職員の意識向上に繋がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修会に参加して職員会議にて話し合い全員が共有できる様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加する機会があまりないので勉強不足は否定できない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容を説明、理解・納得されたことを確認して契約行っている。疑問があれば何時でもどんなことでも尋ねて頂く様に説明行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置して投函できる様にしている家族様訪問時には状況の説明を行い、意見を聞いて対応している。電話での対応もしています	短時間の面会や電話等でホーム内の事を伝え、入居者や家族から意見をもらい、運営に反映している。家族からも、職員は何でも相談しやすく、柔軟に対応してくれるとのこと感想が寄せられているように、職員への安心感と信頼は厚い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて問題点を話し合っ意見交換している。個別の意見も聞く様にしている	月1回開催している職員会議では、活発な意見交換の中で、業務改善や問題点を話し合っている。また、集約した意見は管理者がホーム長に報告し、運営の向上に繋げている。また、管理者は、職員の個人的な相談にも随時応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて個人的に面接を行っています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や研修に行ける機会を設けて積極的に支援しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での研修会などに出席して情報を共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様・家族様のお話を十分に聞き取りサービス計画書作成してケアに取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様の話を十分に聞き取り、困ってある事や要望などを聞き、必要であれば多種のサービス機関との連携をとり多種のサービスを取り入れる様にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にSW・CMなどの情報を参考にして本人・家族様の意向を伺いながら支援し、必要であれば他のサービスも取り入れる様にしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが尊重し合い、生活を共にする思いで本人様の自立を促し、家庭的で暖かいケアを心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族さまと連携とりながら本人様が一番良い環境で過ごされるように電話・面会・外出などの支援協力を頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にてゆっくりと家族との時間を過ごす事が難しいなかで感染対策をしっかりと行い決まった場所で短時間面会をしてもらっている。電話での対応は引き続きおこなっている	コロナ禍でも、窓越しや短時間での面会を行っている。また、遠方の家族には、本人と家族を電話で繋ぎ、対応している。また、ドライブを行いながら、生まれ育った地域や馴染みの商店に行き、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流がスムーズに行く様に行事・レクなどを行い、職員が中にはいつてコミュニケーションが取りやすい様に支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される時に、何時でも相談にのれる体制である事を伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とゆっくりと話す時間を設けている。自分の意思を伝えられない利用者様に関しては家族様・職員からの情報や、本人様の表情・行動などを感敬ケアに反映する様に努めている	午後の茶話会等、ゆっくりした時間に入居者の思いを聞いている。また、意思表示の難しい入居者には、表情や仕草、家族からの意見をもとに本人の意向を推測するよう努めている。入居者の要望でドライブを行い、気分転換を図ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様・家族様より今までの生活環境・馴染の暮らし方や生活歴などの情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の話を聞き、1日の生活状態や本人様の状況を理解し散る。職員からの情報も共有して現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族様より、意見・要望を聞きながら、主治医のアドバイス、職員の意見を参考にしながら、本人様にあった計画を作成している	日々の介護記録や月毎のモニタリングを基に、計画作成者と担当職員が中心となって、介護計画の原案を作成している。また、入居者や家族とも適宜話し合い、介護計画に反映している。支援経過も詳細に記録されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や職員からの情報を共有しながら、実践・介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族様の状況に合わせて、個々の対応ができる様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働はまだ検討する必要があるが、地域の中での支援を心がけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは、往診を軸として24時間体制で連携している。本人・家族様が希望されている医療機関への受診は家族様・施設で対応している	協力医療機関から、月2回の往診がある。歯科往診にも対応している。また、専門医療機関の受診は、主治医に紹介状を書いてもらい家族で行うが、ホームが受診に同行する場合もある。主治医や看護師は、夜間の急変時にも対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、利用者様の情報や気づき等を看護職に伝えて相談し、個々の利用者様が適切な受診ができる様に支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を医療機関へ提供している。入院中は定期的に状態を把握できるように電話などで情報得ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した時の対応、終末期に関する指針を説明し、同意を得ている。早い段階から家族様の意向を聞き、話し合いをし、主治医と相談しながら取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期について家族の意向確認とホームの方針を説明し、同意を得ている。また、要望があれば看取りも行い、入居者の状態に合わせ、主治医や家族と適宜話し合っている。また、管理者は、看取り後の職員の心のケアにも気を配っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時のマニュアルを作成して緊急時の対応がスムーズに行く様に話し合い、実践している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練・災害時の訓練を行っている。消防署職員・地区の消防団の協力を依頼しての訓練も1回は行っている。避難経路や緊急時の連絡網は職員会議などで周知徹底している。警備会社と契約行い火災・緊急時には直ぐに通知できる体制整っている	年2回、日中と夜間想定避難訓練を行っている。また、地区の消防団や警備会社とも連携しながら火災避難訓練も行い、迅速に対応できる体制がある。また、災害マニュアルの下、原発や地震等にも備え、備蓄品やコンセント回りの埃等、日頃から点検している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の勉強会で、個々の人格を尊重する言葉使い、対応について話し合いケアの徹底を促している	トイレ誘導の際は、プライバシーに配慮しながら本人のみに伝えている。また、トイレの入口には使用中の札を掲げ、他者が入らないようにしている。また、入居者に分かりやすく、親しみやすい方言の使い方にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者様に合わせた説明を行い自己決定が出来るようなお手伝いをしながらの支援を行っています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の生活ペースや体調に合わせた支援を行っています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の希望の洋服を選択して着用してもらっています。整髪も起床時に行っています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食材の下ごしらえを手伝ってもらったり、簡単なお菓子作りを一緒に作ったりしています	3食手作りの食事を提供しており、野菜の皮むきや味見、お皿拭き等、職員と一緒にしている。また、入居者の食べたい物や季節行事の料理、職員が差し入れた食材での料理も提供している。誕生日には、ケーキが振舞われ、食べる楽しみを維持できるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様個々に合わせた調理法で作し、ムセのある方はトロミを使用して対応しています。毎回食事・水分量チェックを行っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人様にあった口腔ケアの支援を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握して声掛けや付き添い介助にてトイレでの排泄の支援を行っている	日中はトイレでの排泄を促し、夜間はポータブルトイレやオムツを使う等、個々の状況に応じている。また、排泄パターンを把握することで、紙パンツから布パンツに替えることが出来た事例がある等、排泄の自立に向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルトや果物などを提供し、日中軽体操など運動を行い、便秘の予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間はある程度決め手はいるが本人様の希望や状態により時間の変更はしている	週3回の入浴を基本とし、清拭や足浴等も行い、清潔保持に努めている。また、個浴でゆったりとした時間を過ごし、みかん湯等、季節に因んだ入浴も提供している。風呂の湯にも湧き水を使用しており、入居者の肌艶もよく、皮膚トラブルも少ない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースや体調にあわせた時間を過ごせる様に支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が個々の薬の目的、副作用・用法・用量について理解して行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様にあわせた支援を心がけている。自分の好きな事が出来る時間を作り楽しみや気分転換が出来る支援心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に沿いながら散歩など行っている。コロナ禍の為に外出の機会が少なくなった	コロナ禍でも、ドライブを行い車窓からの景色を楽しんだり、馴染みの店に寄ったりしている。また、毎日の散歩を日課としている入居者と一緒に、季節の花々が咲く敷地内を散策している。コロナが落ち着けば、花見やお祭り行事への参加も検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を所持されている利用者様もあり、買い物依頼されて自分の財布より支払される		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は何時でもかけたり、受けたりできる様になっている。携帯電話所持してある利用者様は自由に話してある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせて、職員と一緒に飾り物など作成し、リビング・廊下・居室に飾り季節感のある居心地の良い環境を作っている	リビングの大きな窓からは、幾本もの桜の木が見える。また、木材がふんだんに使われた建物は、木の香りと温もりがあり、入居者もゆったりと過ごしている。壁には、入居者の作品や雛人形、節分の鬼の面が飾られている。職員は環境に配慮し、換気と消毒を日々徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテレビ・本などが置いてありソファもあり自由に過ごされる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、慣れ親しんだ私物を持ち込んでもらい居心地の良い環境を本人と相談しながら作っている	暖かい陽光が入る窓からは、桜の木が見える。入口には名札が掲げられ、室内も入居者の馴染みの物や写真、テレビが置かれている。また、入居者の状態に合わせて、家族とも相談し家具やベッドの配置も決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレはわかりやすく表示している。リビングはなるべくテーブル・椅子の間隔をあげ、スムーズに行動できる様に配慮している。移動経路の整備や危険物の除去は常に行っている		